たらのき品種「春かおり」１年生株の促成収量と収益性

山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

本県が日本一の生産量を誇るたらの芽は、晩秋に穂木を収穫し、冬期間に節ごとに切った駒木を促成して萌芽したものを出荷する。従来の品種では、促成に利用できる穂木を得るために圃場で２年間株養成する必要があったが、当室で育成した新品種「春かおり」は生育が旺盛で、定植当年から促成に利用できる穂木が得られる。そこで、「春かおり」１年生株の促成収量と収益性を検討した。

研究の成果

① 「春かおり」は、従来品種の「蔵王」より株の生育が旺盛で、主茎が長く、腋芽の着生する節が多いことから、１年生株でも十分な数の駒木が得られる（表１、図１、写真１）。

② 「春かおり」１年生株の商品となる促成芽の収量は「蔵王」の約 1.5 倍となる。さらに、促成芽は「蔵王」より大きく、収益性の高いＬＭ品割合が高いため、粗収入は 2.1 倍程度が見込まれる（図１、図２、写真２）。

表１ 秋期の穂木の生育（9月8日）

品種	主茎長 (cm)	節数 (節)
春かおり	173	21.1
蔵王	126	16.4

写真１ 収穫穂木
（左 「蔵王」 右 「春かおり」）

写真２ 「春かおり」の促成芽

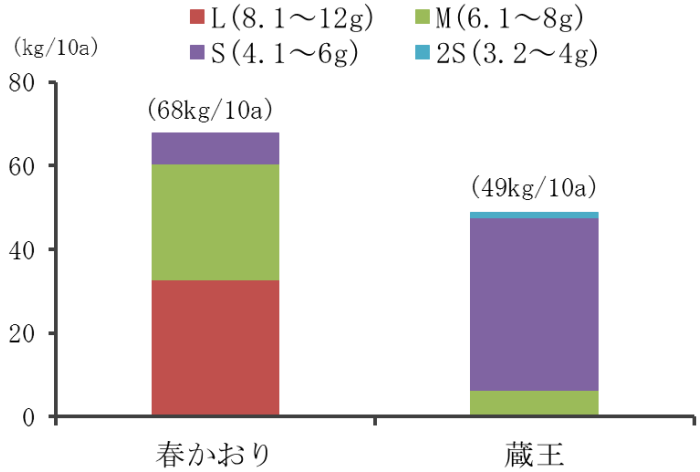

図１ 1月下旬促成の商品収量（kg/10a）

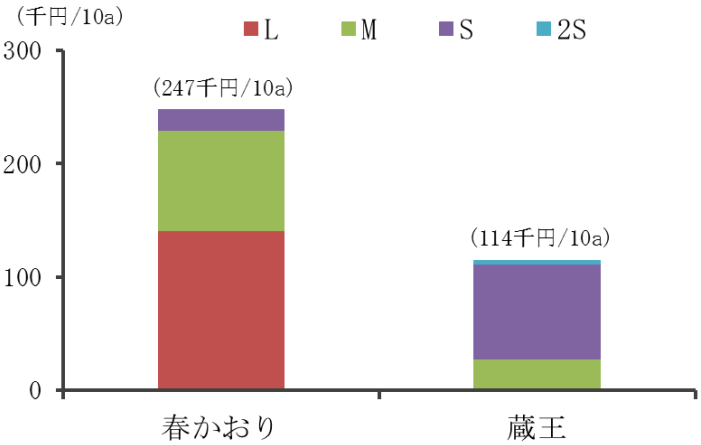

図２ 1月下旬促成の粗収入（千円/10a）

問い合わせ先：園芸研究担当 TEL:0233-22-2201 e-mail:ymogamisanchi@pref.yamagata.jp